

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	九州大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キュウシュウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	機能数理学特別実習(キーテクノロジーを牽引する数学博士養成プログラム)
	学部・研究科等名 担当教職員名・役職	大学院数理学府 佐伯修(マス・フォア・インダストリ研究所 所長)
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	3
受入企業等数	3	
受入企業等名	Hitachi Asia Ltd., Research and Development / Fujitsu Laboratories of America, Inc. / Center for Research in Security and Privacy	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ, 2.有給インターンシップ, 3.海外インターンシップ, 4.国際機関でのインターンシップ, 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ, 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事, 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生は、企業から提供された数学・数理学に関する課題の解決に向けて、個人の自発的アイデアも含めて、チームの一員として取り組む。こうした活動を通して、業務の実態を知るだけでなく、自身の持つ知識やアイデアが、仕事の中にどう生かされ、ひいては社会の中で自身の研究がどのように役立ってゆくのかを身をもって体験することができ、これにより数学・数理学をベースとする職業に対する就業観の育成に大きく資する。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している, 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している, 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している, 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	博士後期課程2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	機能数理学特別実習は、博士後期課程機能数理学コース、キーテクノロジーを牽引する数学博士養成プログラム(九州大学リーディングプログラム)の必修科目であり、主に博士後期課程2年次に3か月から6か月の長期にわたり海外企業でのインターンシップ活動を行うものである。終了後に報告会を行い、そこでの発表をもとに単位認定を行っている。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている, 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている, 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている, 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他	

要素③	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	海外長期インターンシップの期間、定期報告を提出させ、進捗状況等を確認している。海外長期滞在となるので、現地での種々の生活一般についても感想等を書かせている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業とのマッチングを通じた事前指導を行っている。基本的に各学生が受け入れ企業の調査を行い、必要な知識やスキルの準備を行うが、インターンシップを行うにあたっての基本的事項は教員側からも説明会、面談等で指導している。さらに企業の方を講師にお招きし、実務講義を行っていただくことで、数学・数理科学が実際の現場でどのように使われているかの事前学習も行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	終了後に報告書を提出するとともに、企業側の受け入れ担当者から評価コメントもいただいている。報告会を開催し、インターンシップ期間中に行った活動についての発表を行う。インターンシップ期間の最後に企業において社員向けの活動報告も行う。こうした活動を通して、インターンシップを通して学んだこと、どのような面で成長したか、ということの確認を行う。また成果として論文等を執筆しているれば、その確認も行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	海外長期インターンシップ期間中は、定期報告を2週間に一度学生評価会議に提出させ、学生の企業における活動内容、研究進捗状況等を把握している。海外長期滞在となるので、現地での種々の生活一般についても感想等を書かせている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している。 4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	実施後の教育効果を測る取組として、企業と合同で課題解決にあたるスタディグループ(産業界における課題の提供を受け、学生グループが解決に向け研究議論・討論を行う合宿形式の学習・研究会)も開催している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海外インターンシップにおける到達度をシラバスの形で整備しているほか、説明会等で学生に周知を図っている。また、スタディグループも行い、インターンシップでの教育効果を測る取組も行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間3~6か月間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生によってバラツキがあるが、3か月~6か月程度の日数を確保して実施している。これにより、プロジェクトを遂行する研究インターンシップが可能となっている。3か月となると、学生も受け入れ企業側も無駄にできない時間となるため、双方が本気になって取り組むことになる。そのため、企業にとっても重要な課題を与えられることになり、学生達はこれまで予想以上の成果をあげてきた。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業側と学生とのマッチングを、担当教員が企業と協働して行っている。また、企業等から講師を招いて交流セミナーを開催しているほか、実務講義も行っている。さらに、インターンシップ受け入れ担当者による評価も実施している。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/leading/index.html">http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/leading/index.html</a>
問い	大学等名 担当部署名	九州大学 九州大学大学院数理学府

合 わ せ 先	担当者役職名	九州大学リーディングプログラム コーディネーター
	担当者氏名	佐伯修
	電話番号	092-802-4486
	メールアドレス	saeki@imi.kyushu-u.ac.jp